

様式1(主な取組)

活動指標名	伝統芸能公演の開催件数				R元年度			R元年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	15	14	16	13	28	13	100.0%	61,730	順調	<p>県民及び来県者に伝統芸能の鑑賞機会を提供するとともに若手実演家の育成を図るため国立劇場おきなわや各市町村と連携し、かりゆし芸能公演を27回、重要無形文化財保持者公演を1回、合計28公演実施した。(台風による中止1公演 コロナ感染拡大防止による中止1公演)</p> <p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p> <p>国立劇場おきなわを始め、離島等の公演実施を通じ、円等芸能の保有者が活躍できる場を提供することで、若手実演家の育成が図られた。また、当公演の全体入場者数は6,722人を記録し、県民が伝統文化に触れる機会を従来より増加して提供した。</p>
活動指標名					R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名					R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和元年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> ・移動かりゆし芸能公演として、国立劇場おきなわ以外の県内各地で実施する伝統芸能公演を支援する。 ・子ども×伝統芸能公演として、県内実演団体が行う児童が伝統芸能に親しめる公演、ワークショップ等のプログラムを支援する。 						<ul style="list-style-type: none"> ・移動かりゆし芸能公演として県内中北部、離島において8公演を計画、7公演を実施。 ・子ども×伝統芸能公演として、県内実演団体が行う児童が伝統芸能に親しめる内容の公演を7公演計画、6公演を実施した。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・公演チケットの販売は、各公演団体が独自に行っており、団体の規模等により販売数に差異がある。また、インターネット等によるチケット販売は行っていない。

○外部環境の変化

・イベントのチケット購入については、インターネットによる購入も普及している。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・従来の公演団体によるチケット販売方法も維持しつつ、文化振興会のホームページでインターネットによるチケット販売を行う。

4 取組の改善案 (Action)

・従来の公演団体によるチケット販売方法も維持しつつ、文化振興会のホームページでインターネットによるチケット販売を行う。

様式1(主な取組)

活動指標名	入館者数				R元年度			R元年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	535,994	435,239	508,822	504,894	577,528	498,000	100.0%	98,017	順調	<p>収蔵資料を展示する常設展・コレクション展のほか、企画展・特別展を計15回開催した。また、学芸員講座、バックヤードツアー、文化講座等を実施した。</p>
活動指標名					R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
										<p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p>
活動指標名					R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			<p>沖縄の収蔵資料を展示する常設展・コレクション展のほか、琉球王国のグスク及び関連遺産群世界遺産登録20周年を記念する特別展や沖縄出身の写真家の展覧会等を開催し、県内外の利用者を惹きつける展覧会や催事を開催した。また、無料Wi-Fiや多言語券売機の設置等利用サービスの向上にも取り組んだ結果、計画値の49万8千人を超える57万7千人の入館者数を達成した。</p>
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和元年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> 無料Wi-Fiの設置や券売機が多言語化等を実施し、県内客のみならず、県外・国外からの観光客も利用しやすい施設を整える。 平成31年度は、琉球王国のグスク及び関連遺産群の世界遺産登録20周年や組踊初演300年記念になっていることから、県民の関心を捉えた関連展示を行う。 						<ul style="list-style-type: none"> 無料Wi-Fiの設置や券売機が多言語化を実施し、県外、国外からの観光客も含め利用しやすい環境を整備した。 琉球王国のグスク及び関連遺産群の世界遺産登録20周年や組踊初演300年記念にあたり県民の関心の向上をとらえ、グスク及び組踊り関連の展示を行った。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・施設案内については多言語化が進んでいるが、展示に係る多言語化については、対応が十分でない。

○外部環境の変化

・2020年の東京オリンピック、パラリンピック開催に関連して、外国からの利用者が增多することが予想される。

・新型コロナウイルスの状況を踏まえながら展示やイベントの実施方法を検討する必要がある。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・外国人入館者の増加に対応するため、展示についても多言語化を進める必要がある。
- ・新型コロナウイルスについて、今後の状況を踏まえながら博物館運営を行う必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

- ・国外からの利用者に向けて、解説パネル等、展示についても多言語表記を実施する。
- ・引き続き、新型コロナウイルス感染拡大対策を実施しながら展示を実施し、終息後は利用者に向けて発信を強化する。

様式1(主な取組)

活動指標名	しまくとぅば普及の中核的機能を担う普及センターの設置・運営				R元年度			R元年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要	
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B				
	—	—	設置・運営	運営	運営	—	100.0%	91,014	順調	平成29年度に設置した「しまくとぅば普及センター」の運営を沖縄県文化協会へ委託し、各地域における人材の養成や活用のコーディネートその他、地域の会話集の作成、しまくとぅば検定の実施、県民からの相談対応等の業務を行った。	
活動指標名					R元年度						
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B				
										進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	「しまくとぅば普及センター」の運営により、講師養成講座及びしまくとぅば検定を実施したほか、22地域で人材養成講座を開催、出前講座も16件行うなどしまくとぅばの普及に向けて県民がしまくとぅばを学べる環境整備が促進された。
活動指標名					R元年度						
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B				
(2)これまでの改善案の反映状況											
令和元年度の取組改善案						反映状況					
<ul style="list-style-type: none"> 県内各地域の現状をより詳細に把握し、各地域にあったサポートが行えるよう関係団体等と連携を図る。 しまくとぅば講師養成講座及びしまくとぅば検定について、実施回数を増やすとともに、これまで開催していなかった中北部での開催を目指す。 						<ul style="list-style-type: none"> 県内各地域の市町村文化協会などしまくとぅば普及団体と連携し、地域のしまくとぅばの会話集及び絵本・紙芝居などの普及ツール作成支援など、地域の普及団体の取組みに応じた支援を行うことができた。 しまくとぅば講師養成講座については、沖縄本島中部で中級講座を実施するとともに、沖縄本島北部で初級講座を開催した。しまくとぅば検定についても、9級に加え、8級及び7級を実施した。 					



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

- ・全県的な取組をさらに強化するためには、コーディネート業務が重要となるが、「しまくとうば普及センター」人員は採用から日が浅い者もいること、自身になじみのないことばの地域における活動においては、地域の普及団体等との信頼関係構築に時間を要する場合もある。
- ・しまくとうば普及の全県的な取組につながるよう、講師養成講座及びしまくとうば検定の実施回数及び実施場所を拡充することとしているが、これらの実施に期間を要している。

○外部環境の変化

- ・「しまくとうば県民意識調査」によると、「しまくとうば」を話せる人の割合は昨年度より上昇した。また、しまくとうばに親しみを感じている人やしまくとうばは必要であると思う人の割合、しまくとうばへの理解度は高い割合を示している。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・全県的な取組を強化するため、市町村文化協会など、他のしまくとうば普及関係団体と連携していく必要がある。
- ・しまくとうば講師養成講座及びしまくとうば検定について、実施回数の増、未開催地域での開催を検討するほか、実施体制も検討する必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

- ・公民館を含む市町村、市町村文化協会などの文化関係団体等と連携を図り、各実施主体も主体的にしまくとうば普及活動に取り組んでいただくよう、働きかけを強化する。

様式1(主な取組)

活動指標名	伝統芸能公演の開催件数				R元年度			R元年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	15回	14回	16回	13回	28公演	30公演	93.0%	61,730	順調	<p>県民及び来県者に伝統芸能の鑑賞機会を提供するとともに若手実演家の育成を図るため、国立劇場おきなわや各市町村と連携しかりゆし芸能公演を27回、重要無形文化財保持者等公演を1回、合計28公演実施した。(台風による中止1公演 コロナ感染拡大防止による中止1公演)</p> <p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p> <p>国立劇場おきなわを始め、離島等の公演実施を通じ、伝統芸能の保有者が活躍できる場を提供することで、若手実演家の育成が図られた。また、当公演の全体入場者数は6,722人を記録し、県民が伝統文化に触れる機会を従来より増加して提供した。</p>
活動指標名					R元年度					
実績値										
活動指標名					R元年度					
実績値										
活動指標名					R元年度					
実績値										
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和元年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> ・移動かりゆし芸能公演として、国立劇場おきなわ以外の県内各地で実施する伝統芸能公演を支援する。 ・子ども×伝統芸能公演として、県内実演団体が行う児童が伝統芸能に親しめる公演、ワークショップ等のプログラムを支援する。 						<ul style="list-style-type: none"> ・移動かりゆし芸能公演として、県内中北部、離島において8公演を計画、7公演を実施。 ・子ども×伝統芸能公演として、県内実演団体が行う児童が伝統芸能に親しめる内容の公演を7公演計画、6公演を実施。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・チケットの販売は、各公演団体が独自に行っており、団体の規模等により販売数に差異がある。また、インターネット等によるチケット販売は行っていない。

○外部環境の変化

・イベントにおいて、インターネットによるチケット販売は一般的なものとなっている。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・従来の公演団体による販売は継続しつつ、複数のチケット販売方法を確保し、あらたな客層の開拓を図る必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・従来の公演団体によるチケット販売方法も維持しつつ、文化振興会のホームページで、インターネットによるチケット販売を行う。

様式1(主な取組)

活動指標名	各地域でのシンポジウム等の開催				R元年度			R元年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	4	2	3	66.7%	8,723	概ね順調	<p>県内各地域の伝統行事、伝統芸能、しまくとぅば等の普及・継承についてのシンポジウム及び講演会を計2回実施し、計312名の来場者があった。また、普段は地域の祭事等でしか披露されていない各地域の伝統芸能を一カ所に集め、国立劇場おきなわで披露する公演「特選沖縄の伝統芸能」を実施、570名の入場者があった。</p> <p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p> <p>県内1地域（南風原町）でその地域の伝統行事や伝統芸能をテーマにシンポジウムを行った。また、離島出身の講師を招き文化講演を行うことで、地域文化の魅力について再認識できた。</p> <p>また、県内各地域で継承されている伝統芸能、伝統行事を国立劇場沖縄で披露する公演を行い、他地域との比較や交流を行う事で、自らの地域の伝統芸能等の重要性の再認識が図られた。</p>
活動指標名	地域の伝統芸能を集めた公演				R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	1	1	1	100.0%			
活動指標名					R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和元年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> 引き続き各地域の特色・違いを再発見してもらい、愛着を持ってもらうため、文化の基層であり、地域ごとに特色がある「しまくとぅば」を絡めたシンポジウムや、地域の伝統芸能等を集めた公演を開催する。 地域の伝統芸能等をテーマとした講演会を開き、複数の地域を招いて情報交換の場を提供することで、県民1人1人が自身の地域の伝統文化を見つめ直すことができるよう機運醸成を図る。 						<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの感染予防のため当初予定していた3地域では行えなかったが、シンポジウムを1地域（南風原町津嘉山地区）で開催した。地元で伝統芸能の保存継承に携わっている方をメインにパネリストを構成した他、各地域の伝統芸能のデモンストレーションも含めたプログラムとしたことから、地域住民が活発に意見を交わす姿が見られた。 地域の文化継承に関する1つのテーマを設け、離島出身の講師による講演会を開催したことにより、島の外からみる地域文化の魅力について再発見、再認識することが出来た。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・地域文化継承に関して、文化関連団体間の横の連携が取れていない。各地の取組について情報交換できるような場がない。

○外部環境の変化

・各地域の住民が、自らの地域の伝統行事・伝統芸能の重要性や価値を共有できていない。
・娯楽の多様化に伴い、自らの地域の伝統行事・伝統芸能への関心が薄れている。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・各地域の特色・違いを再発見してもらい、愛着を持ってもらうため、文化の基層であり、地域ごとに特色がある「しまくとぅば」を絡めたシンポジウムを開催する必要がある。

・地域文化の普及継承に携わる各団体の連携を強化するため、情報交換の場を提供し、今後の地域文化の普及継承に対する機運醸成を図る必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・引き続き各地域の特色・違いを再発見してもらい、愛着を持ってもらうため、文化の基層であり、地域ごとに特色がある「しまくとぅば」を絡めたシンポジウムや、地域の伝統芸能等を集めた公演を開催する。

・地域の伝統芸能等に関するテーマを1つ取り上げた講演会を開き、複数の地域を招いて情報交換の場を提供することで、県民1人1人が自身の地域の伝統文化を見つめ直すことができるよう機運醸成を図る。